



繪本異國一覽

特別
~13
3425
1



3425
I

異國一覽序

人非人

東夷やふい婦と
嗚呼南極と

考らしむ
如於るを山と

諸君子の誠を
もろくもみ我

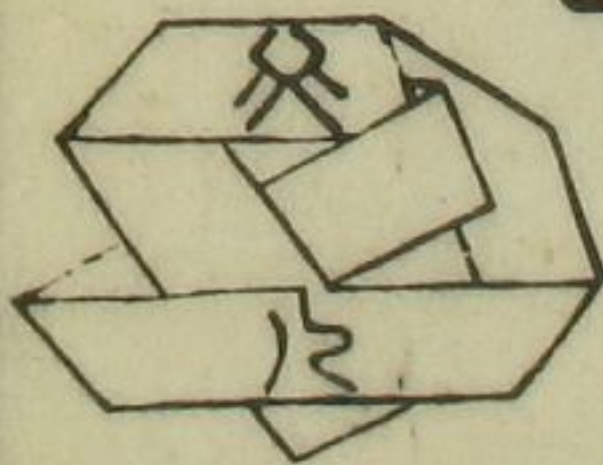
志あがる異國一覽
ハ英園其と

一廿
廿日

以て之を皇太子の御從の者
よめしむ也

寛政己未五月

孝先國花丸表

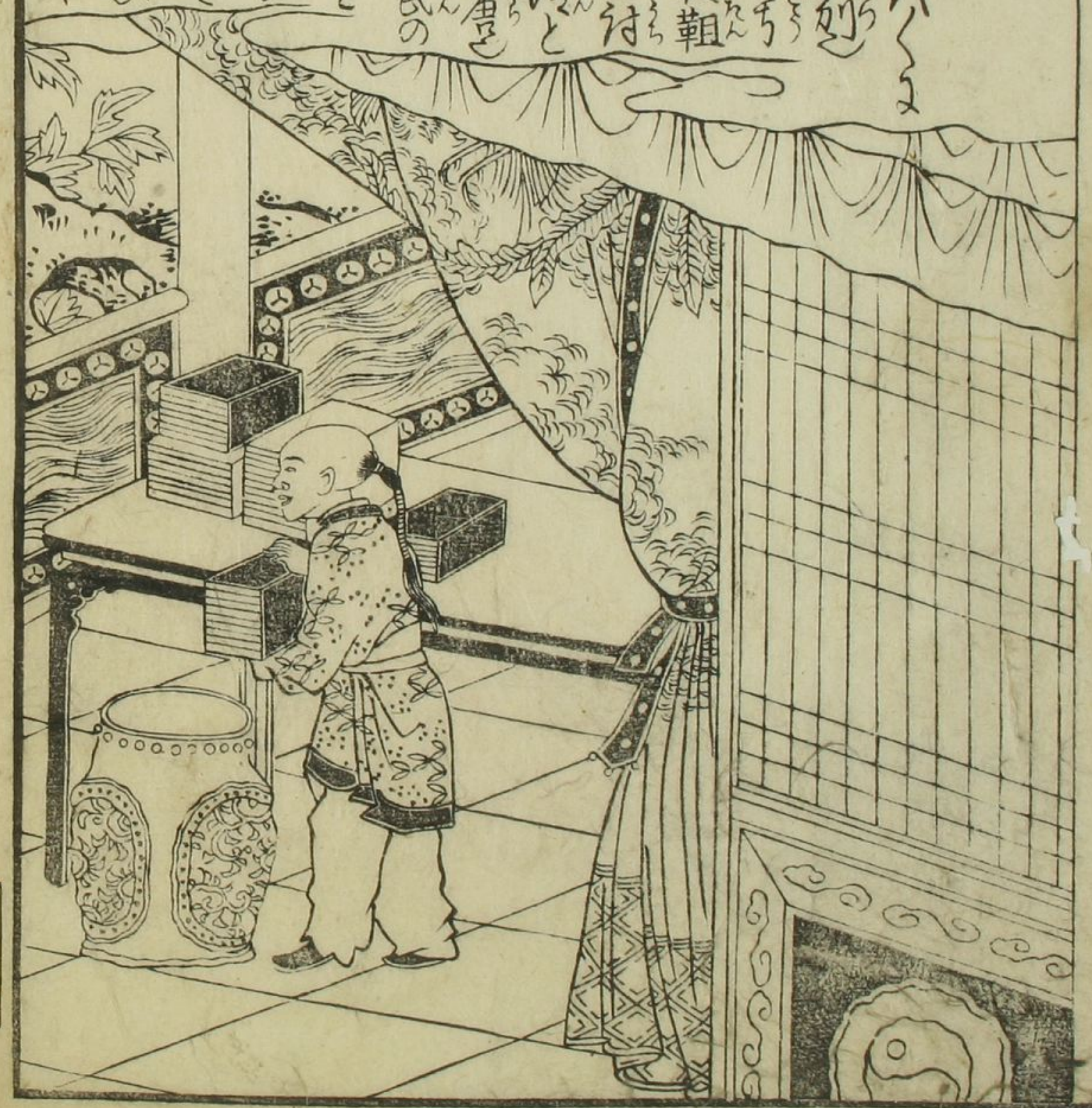


畫本異國一覽卷之壹

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 巴 | 渤 | 廣 | 臺 | 兀 | 大 |
| 且 | 泥 | 南 | 灣 | 良 | 清 |
| 國 | 國 | 國 | 國 | 哈 | 國 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 暹 | 瓜 | 占 | 琉 | 朝 |
| | 羅 | 哇 | 城 | 球 | 鮮 |
| | 國 | 國 | 國 | 國 | 國 |

○大清國

抄中其女その代々
去つててて園号
高代と別大はと
世祖太祖皇帝の
國より出て明の世
はるばる國号は
風俗法は正しく
異るることなく
篆字のや隸書
唐のやまじやと
白砂糖と唐の砂



とてついでに
またの就仁やお
な娘さういねも
教諭人もまた
とまはるる人の
ふむむむむむ
ばつとむむむむ
かつとむむむむ
おのひと集り
唐のやまじやと
ごたごた
おのひと集り
本とてなれんや
るひる人うた



朝鮮國

以國ヨクニハ一イツ方ホウ馬韓マハ辰チン
 韓ハ弁韓ヘンハとト三韓サムハとト又マタ新羅シンラ
 三韓サムハとト百濟ハクサイ高麗コウリとト三國サムクニ
 百濟ハクサイ高麗コウリとト三國サムクニ
 國クニ人ヒト信シン通トウとト中チュウ夏カもモ務ム了リョウ也ヤ
 中チュウ夏カもモ務ム了リョウ也ヤ
 衣イ被ヒ云クニ復フク中チュウ夏カもモ務ム了リョウ也ヤ
 衣イ被ヒ云クニ復フク中チュウ夏カもモ務ム了リョウ也ヤ
 少シウ鬣ゲツ甲カウのノたタくク
 少シウ鬣ゲツ甲カウのノたタくク
 考コウ夜ヤ亦ヤク位イ在ザイのノのノのノ
 考コウ夜ヤ亦ヤク位イ在ザイのノのノのノ



日ニチとト月ツキとトのノのノ
 日ニチとト月ツキとトのノのノ
 日ニチとト月ツキとトのノのノ
 日ニチとト月ツキとトのノのノ

冬フユのノ
 冬フユのノ
 冬フユのノ
 冬フユのノ



○元良哈國

朝鮮國の小白頭
 山より西より来る
 必らず風俗如く
 又似たりは此の人の見
 強むとてその人ハヤク
 ライノクニを待ちまら
 位と止むとれり鬼舎冠
 本よりとらぬ
 うの清正が事
 今ロクとて
 遼来々々
 魏の強遠



容貌かそけし
 んこそその後乃
 倍小児の後より
 ライノクニ
 小児とれて
 ことむと平
 同とら
 又は國法正の
 像を画して門
 なるは強付唐除
 の符札
 かり
 蜀の國羽の像とぞ
 なる



琉球

國王

國王代々中山王と

号を改め中山公と

いつ日本差遣す

南より船をりて

必今の過半日本に

なるをいれ

旅船と名をけし

船中などの和服の

そまひあつらひ

つとぶらり

いひふら



芭蕉布の衣裳は流球に

いどのゆきせし

各府侍の流球技の

つとむ

の三味線

球組の

てま

か

あ

こ

小

や

て

あ

や



○臺 灣 國

又塔伽沙タカガサに合あはれしものもの暖ぬるみ
ふくして人物モノモノの中心ちゆうしんのあり
るを知らるる國性こくせい鄭てい成せい
功こうのゆゑとさうさるる事こと
より後のちをいふ事ことあり
國性こくせい爺や搦な門もんの陰かげを
さすのてらわくほんとも
いふ事ことなる事ことあり
てられんとすれども
このゆゑはさうさるる事こと
あり



○ 占城國

中葉より南に
 大熱なるるを
 九月の九月に
 暖かうなるは
 そのあつて人
 半人なるも
 いやれぬのち
 園庭とまよ
 らつかう入海
 たびもまを
 色もまを
 かくらふもの
 独りこころ



中葉より南に
 大熱なるるを
 九月の九月に
 暖かうなるは
 そのあつて人
 半人なるも
 いやれぬのち
 園庭とまよ
 らつかう入海
 たびもまを
 色もまを
 かくらふもの
 独りこころ



○ 廣南國

東京の如きまきり文趾
 とい東埔寨とい人物
 色里々、或るらちいさ
 男が女といまきりいけ
 心の風俗といはよ金
 麻といつものとい金
 金麻草といすの
 糸は換綿の刻
 たるをいへんる物
 宮まればかきいけ
 まつる麻といけ
 かのいふい日本
 烟といふのいかりい



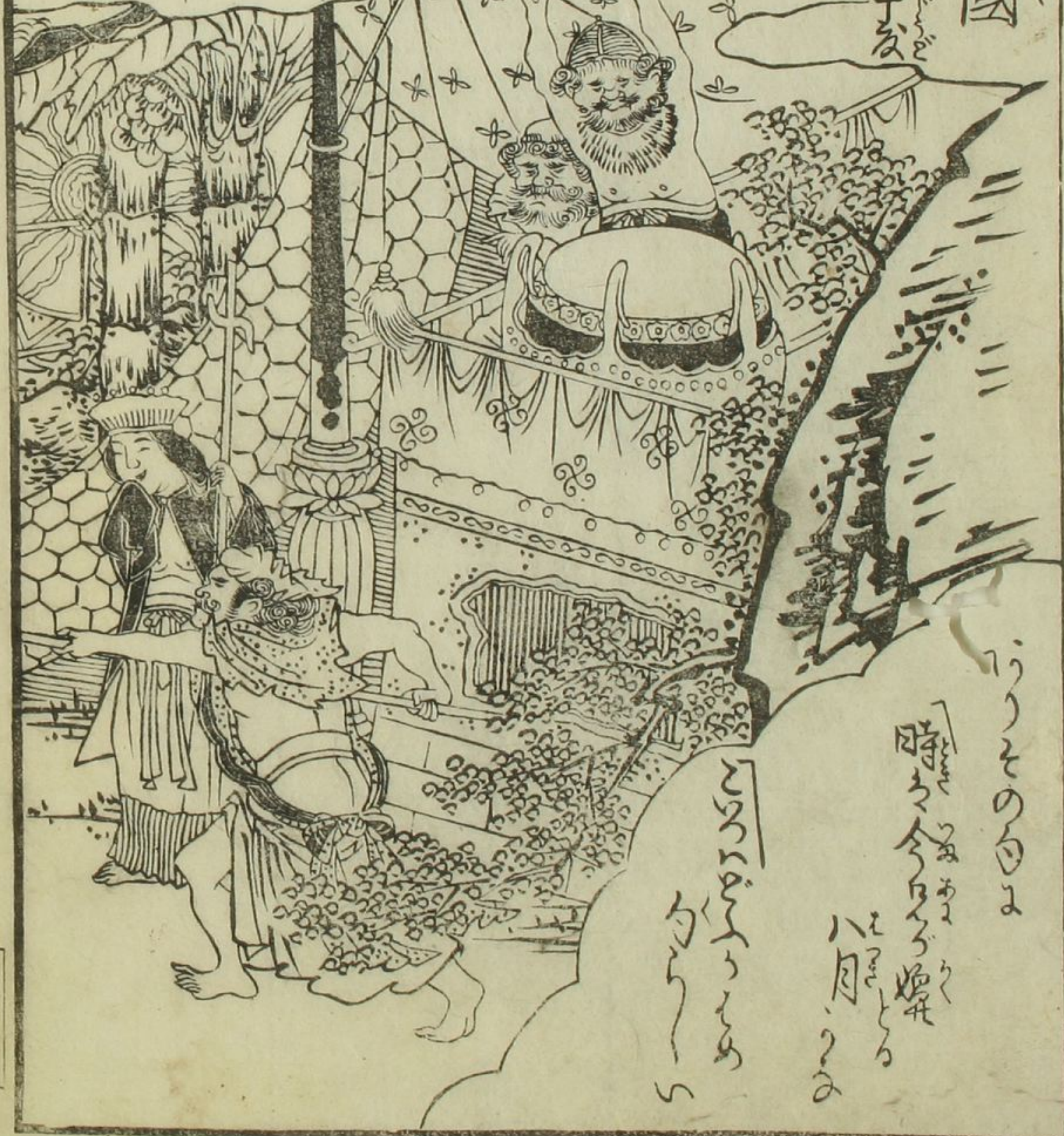
さういふを麻といふ
 ませといふ又巧
 匠日府たといふ
 さんかやといふ
 つていふたといふ
 やといふたといふ
 ちいといふ
 日大いといふ
 日本といふ
 のといふ
 まい保といふ
 日といふ
 いといふ
 といふ



瓜哇國

瓜哇國南極北十五
の正しく日輪

山とせらるる
とも執事たる
國王の御
吹笛也
毎年八月は
の始めに
おまわつて
陰命
りついで
とのまひて
まうて



ついで
時々
八月

場よつて
おまわつて
教のしごとを相
も又國を
ひは外陰を
るか
つて
だれ
夫婦
りた
ふと
甘
か
よの
と



○ 勃泥 國

爪哇のゆまにり天竺の層
 都と文帛馬神と
 玉王繩をををを
 そのとくま人もと
 布のふらに
 のよふふとををを
 院養との入又柳の實を
 製して酒を造り
 けを飲り合ひ
 故の國中るる
 そのとくま人もと
 布のふらに
 のよふふとををを
 院養との入又柳の實を
 製して酒を造り
 けを飲り合ひ
 故の國中るる



ねんがらけふ人抱き
 といほの風ぬし
 又婚振舞
 即白といひ月
 なにといふを
 やいて倉大食
 ちて後實し
 やりて
 かくるを
 本てはる
 たうまら
 られど
 二日ぬ
 解るん
 そら又
 解の



解のやるらむといふ

○暹羅國

東天竺の東南よ
 けり人物色思く
 髪はまやく短く
 ちくちく短く
 口のくちくちく
 知量男も
 政勢私のも
 つるまぐさ
 これを
 下を
 必で
 自



も客か
 並なれ
 十を
 ふる
 ひと
 て
 めつ
 の
 ろく
 せい
 せい
 せい



巴且國



番且し稱と暹
羅く南よ
ほくさなるふらふりふり
巴且。加寧巴且とて二持ふ
別るこころはさるころの加寧
巴且として人物を卑ふ人
芋魁を巧くたくらむるを
うめくの人とさかたむけ
ふの奈みの芋がらと大食
ころよりかのほくさぐ
盛れ倍たるといふ人のふせむ芋
がらをゆきしやうふしけりしけりしやうふしけりしやう

橋本市太郎

井上鶴州先生著

卜筮貨殖考

小本全壹冊

増補改正新板

米穀内實鑑

折本全壹紙

大阪書林

堂鳩中町
渡辺橋通

堺屋治三郎

此書ハ米穀賣買秘傳中々
日々時々乃運守言下易秘と
要一々考之知りしむむかふ身と
わけて解一安く以實小本家の
必用随一と賞一そむいさるは

此書ハ諸家法流在方登り米
雜穀内實外日儀教中自述出の
日限ホ、あつと本一々お編一
あつと極細吟一増補以米
あつと日用宜室あつと

新編

